

農家と地域住民を マッチング

専用求人サイト



JA無料職業 紹介事業

JAグループ大阪では、JA内に無料職業紹介所を開設し、組合員農家の求人情報の収集・マッチングなどを進める「無料職業紹介事業」を展開している。令和元年11月に開始された同事業は、現在JA大阪中河内、JA大阪南、JAいずみの3JAで取り組まれている。

求人希望する農家が窓口となるJAに申請をすると、JA大阪中央会が運営するサイト内に求人内容が掲載され、民間求人サイトなどにも転載される仕組み。閲覧して興味を持った地域住民からの応募を農家に繋ぎ、

連絡や一次面接の対応などマッチングのための業務をJAが担う。

新型コロナウイルスの感染が広がった令和2年度以降は、農業に関心を持つ者の増加に伴って、同事業を活用する事例も増加。令和3年5月時点では、151人がこれにより農業に従事している。

今回は、労働力確保の新たな形として、JA大阪中河内を通じて同事業を活用する松原市の河谷ファームに話を聞いた(他JAの取り組み事例は次月号に掲載)。

JA大阪中河内

経営拡大で新たな労働力を

松原市・河谷ファーム

「4人の従業員の働きたい時間にそれぞれ入ってもらい、農園の作業を助けてもらっている」と話すのは、松原市・河谷ファーム代表の河谷文雄さん(64)だ。

4年前に公務員を退職して帰農した河谷さんは、親の代から30年以上続く農園を継ぎ、水稲のほかキャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、ミズ

ナ等の季節野菜や、トレビス・ビーツなどイタリア野菜、フランスのイチジク等40種類以上の作物を栽培。近隣で耕作できなかった農地も積極的に借り受けて、現在の耕作面積は約1・2畝と帰農当初の2倍近くに広がった。

経営拡大も進む中、農繁期の秋頃にスポットで労働力が欲しいと感じた河谷さんはJA大阪

中河内の営農総合センターに相談し、無料職業紹介事業の活用を勧められた。

現在の従業員は、会社員など他のキャリアを持つ人もいる。作業面で大きな力になるだけでなく、農園経営の見識を広げるという点でも助かっていると振り返る。

佐々木美菜さん(26)もその1人だ。芸術家として活動する佐々木さんは、農作業を手伝う傍ら農園のホームページのデザイン等で相談に応じることもあり、という。「自分の仕事と並行して働きたい時間に働けるので

水田協総会

全会一致で議案承認

大阪府水田農業推進協議会は7月9日、令和3年度総会を書面開催した。

提出議案の令和2年度事業報告・収支決算、3年度事業計画・収支予算の2議案は全会一致で承認された。

総会に先立ち、米政策改革推進部会が開かれ、総会提出議案について協議が行われたほか、令和3年度経営所得安定対策等、大阪府水田収益力強化ビジョン

(産地交付金)などについて報告があった。

同ビジョンについては、3年度から、高収益作物の作付拡大による水田フル活用及び収益力強化等に向けて、産地交付金メニューのうち、各地域協議会が定める「地域振興拡大作物」への助成単価が引き上げられたほか、土地利用型作物(水稲+戦略作物)の「二毛作」助成が新設された。(光崎)

ありがたい。農業は初めてだが、河谷さんが丁寧に指導してくれて、敷居の高さを感じずに作業が出来ている」と明るく話す。

今後近隣の遊休農地は積極的に引き受けて拡大を考える河谷さん。経営拡大が進めば、更なる事業の活用も検討中だ。

(沼田)



佐々木さん(左)は、昨年10月から河谷さん(右)のもとで働いている